

令和5年度（第62回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

●しかのちょう こうち かじゅ さとやまきょうぎかい 鹿野町河内果樹の里山協議会 〔とっとりけん とっとりししかのちょう〕（会長 ささき ちよこ 佐々木 千代子）

（1）むらづくりの背景・動機

平成26年に鹿野町河内下条地区約4haの農地が耕作放棄地となる可能性が明るみとなり、同時に、農地だけでなく地域全体の疲弊も心配された。集落も近い農地の耕作放棄地化をどうにか阻止し、稲作が無理ならば新たな活用を見いだせないかと考えた。

このため、地域住民有志が中心となって平成27年4月「鹿野町河内果樹の里山協議会」を設立し、耕作放棄地を果樹園に再生することを目指した。

（2）むらづくりの内容

① 生産面における取組状況

現在約4.5haに果樹860本と野菜・そばを育て、いちじくジャム、ドライフルーツ、干し芋などの加工に取り組み、都市との交流や販売ネットワーク構築にも取り組んでいる。それに加え、鹿野町出身のアーティストである、ひやまちさとさんに協力していただきホームページ等のデザインにも力を入れている。そして建物の老朽化と利用率の低さにより平成31年4月末で閉鎖された旧河内生活改善センターを、令和元年10月に協議会が鳥取市より賃借を受けた。令和2年リノベーションを進め公募で「里山ベース」と命名し、都市との交流・商品開発・果樹の里山体験等の拠点として活用している。

またピザ釜を作り、里山で生育した「いちじく」や地域で昔から作られていた「やたら漬け」を活用したメニューを考案し、地域の人々や子どもたち、視察に訪れた方々のピザ作り体験も行っており人気である。

これまで約8年にわたって果樹の里山づくりに取り組んだこと、大阪国際大学生、鳥取大学生による里山ツアー、留学生ツアーなどを企画し実践してきた成果と言える。

② 生活改善の取組状況

1回目の「果樹の里山まつり」は令和2年10月17日、18日にコロナ渦の中、開催。小さな集落に2日間で594人が集った。里山ベースを中心に「直販市」「くだもの狩り」「ミニコンサート」に加え、大阪国際大学生が企画した「フットパスツアー」「鹿野ビンゴゲーム大会」「おもさ当てクイズ」「instagram 写真コンテスト」はとても人気であった。予想を大幅に超える盛況となったが、果樹の里山の活動と鹿野町河内地区の魅力を多くの方に知って頂く機会となった。地域の人々も「河内にこれだけの人と賑わいがもたらされたことは記憶に無い」と言っておられた。「果樹の里山まつり」は昨年3回目を開催し果樹の里山を今後も継続する原動力となり、農地を守り活かして、地域が元気に循環することに繋がっている。